

【解体業】

1. 事業計画書及び収支見積書 様式1（記載例）

本例はあくまでも一つの記入例であるので、各自のものを記入すること。

事業計画書及び収支見積書（様式1）

平成16年 7月 1日 現在作成

1-1. 事業の全体計画（業務を行う時間、従業員数、休業日、扱う車種（乗用車、大型車）を含む。）

引取業者及びフロン類回収業者（ 商会 等）から引取りを行った使用済自動車（乗用車及び大型車）を解体し、有用部品（エンジン、ドア、バンパー等）を回収し、中古部品業者及び金属商等に売却する。
解体作業に伴い発生した廃プラスチック類については産業廃棄物処分業者に委託し破碎処分する。
解体自動車については、（破碎業者）に引渡を行う。
各作業時間等は別添フローのとおり。
（フロー概略図を添付（省略））

業務時間	8:00~17:00	従業員数	3人	休業日	日曜日・祝祭日
------	------------	------	----	-----	---------

1-2. 使用済自動車等の引取実績及び計画

年 度	13年度実績 (3年前)	14年度実績 (2年前)	15年度実績 (1年前)	許可取得後の 年間計画
引取台数	480台	510台	500台	700台
主な引取先	×販売(株) 自工(株)	×販売(株) 自工(株)	×販売(株) 自工(株)	×販売(株) 自工(株)

1-3. 解体実績（乗用車）

年 度	13年度実績 (3年前)	14年度実績 (2年前)	15年度実績 (1年前)
年間処理実績	490台	500台	500台
年間稼働日数	280日	280日	280日
平均処理実績	1.8台/日	1.8台/日	1.8台/日

1-4. 解体能力

1日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
3台/日	280日	840台

1-5. 保管の状況

使用済自動車		解体自動車	
保管量の上限	50台 ()	保管量の上限	50台 (30台)
現在保管量	80台 ()	現在保管量	250台 (100台)

事業所以外の場所で保管している場合は、その台数を内数で（ ）に記入すること

2. 事業計画書及び収支見積書 様式2 (記載例)
 (保管基準を超えて保管している場合に限る)

本例はあくまでも一つの記入例
 であるので、各自のものを記入
 すること。

事業計画書及び収支見積書 (様式2)

平成16年 7月 1日 現在作成

2-1. 不適正に大量に保管している使用済自動車等の処理計画

保管量上限を超過している廃棄物の種類 (すべて記載)(注)	使用済自動車 (80台) 解体自動車 (250台) 廃バッテリー (1,000個) 廃タイヤ (5,000本)
保管量上限を超過している廃棄物の搬出の方法	使用済自動車は自社で解体し、解体自動車とする。 解体自動車は、所有するユニック車 (4t) により、破砕業者に搬出し、有価物として売却する。 廃バッテリーは、リサイクルルートに載せ再生業者に引き渡す。 廃タイヤは、産業廃棄物として委託処理する。
搬出先の所在地及び名称	解体自動車: 金属(株) (市×町 丁目) 廃バッテリー: 精錬(株) (町 番地) 廃タイヤ: セメント(株) 工場 (町 番地)
搬出先での処理の方法	解体自動車: 破砕処理 (金属(株)) 廃バッテリー: 中和、溶融 (資源化) (精錬(株)) 廃タイヤ: 焼却、燃料 (セメント(株))
年間搬出予定量 (種類別)	解体自動車: 250台/年 (保管分、20台/月) 廃バッテリー: 1000個/年 (保管分) 廃タイヤ: 5000本/年 (保管分)
過去1年間の年間搬出実績 (種類別)	解体自動車: 30台/月、400台/年 バッテリー: 300個/年 廃タイヤ: 1000本/年
改善完了予定年月日	平成17年6月30日
改善にかかる予定費用	搬出費用 万円 処分費用 万円 販売費用 万円 計 万円
改善にかかる資金の調達先	自己資金 万円 銀行からの借り入れ 万円 農協からの借り入れ 万円

(注) 使用済自動車、解体自動車以外の廃棄物がある場合には、その保管量も記入すること。